

“IgG4 関連腎臓病の治療反応性、予後を明らかにするための多施設共同後方視的臨床研究”

研究の概要・背景“

近年血液中のIgG4の値が高値で、障害される組織中にIgG4陽性形質細胞の浸潤を多数認める“IgG4関連疾患”という新しい全身疾患があることがわかってきました。障害臓器としては自己免疫性膵炎、唾液腺炎などが多くみられますが、腎臓、肺、血管などいろいろな臓器に障害が起き得ることがわかっています。

ただし、IgG4関連疾患に伴う腎臓病（IgG4関連腎臓病）の原因はまだ不明で、治療についてもステロイド薬はある程度有効とされていますがその詳細についてはこれまでまとまった研究がなく、詳しくわかっていませんでした。そこでIgG4関連腎臓病の治療を考える上で治療後の腎機能、また治療後の経過に影響を及ぼす因子などについて検討するために、2004年4月から2022年3月までに、当院で腎疾患の診療を受けられた患者さんについて腎生検や臨床情報の結果を調べる研究を予定しております。

この研究責任者は金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科 川野充弘医師であり、研究は金沢大学附属病院長の許可を得ています。当院はこの研究の協力施設として参加しています。

対象者・期間

2004年4月から2022年3月までに当院腎膠原病内科でIgG4関連腎臓病と診断された、あるいは疑われた患者様が対象となります。

データ利用のお願いと申し出について

この研究では、2004年4月から2022年3月までに腎生検で採取された腎組織を用いて、抗ヒトIgG4抗体を用いる免疫染色を行い、腎組織内でのIgG4蛋白の発現を観察致します。免疫染色結果もあわせてIgG4関連腎臓病と診断される患者さんについて、診療のときに検査した血液検査、画像検査、腎生検組織のデータ、またカルテのデータから年齢、性別、おかされている臓器、アレルギー歴(アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、気管支喘息など)、結核の既往歴/家族歴、その他特記すべき既往歴/家族歴、動脈硬化性疾患(糖尿病、高血圧症、脂質異常症など)の有無、自覚症状、また治療内容についてのデータを使います。

この後、必要なデータをまとめ、治療前の臨床的特徴、IgG4関連腎臓病に対する治療法と治療後の腎機能、画像所見等の経過との関連についての研究を行います。集めたデータは学会や論文などに発表される事があります

患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。

研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院 内科

担当医師：佐伯敬子

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)